

実績報告

診療部

- ・医 局
- ・歯 科
- ・薬 剤 科
- ・放 射 線 科
- ・臨 床 検 査 科
- ・栄 養 科
- ・心 理 室
- ・医 療 相 談 室
- ・デ イ ケ ア 科
- ・作 業 療 法 科



診 療 部

診療部は、医局、歯科、薬剤科、放射線科、臨床検査科、作業療法科、栄養科、医療相談室、心理室、デイケア科で構成されている。

今年度も診療部会議を年2回開催した。各部門の課題およびその進捗状況について話し合い、課題共有に有効な場としている。

診療部長 豊岡 和彦

【部署名】

医局

【職員数】

13名（精神科医 9名、内科医 2名、（事務員 2名））

令和元年度は、4月から金子尚史院長、澁谷雅子副院長、布川綾子医長が入局された。新たな医局員が加わったことで病棟再編、訪問診療、医局勉強会など新たな取り組みを始める重要な年となった。また、令和元年度末に高橋敬一先生が退職された。

【業務内容】

外来診療および入院診療が主な業務である。令和元年度も救急患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、時間外診療を積極的に行った。また、令和2年1月から澁谷副院長が訪問診療を開始した。新型コロナウイルス感染症対策のため電話診療の導入も施行された。

<精神科救急>

令和元年度は、新潟県の精神科救急システムにおいて、月・水・木の夜間のほぼ全て、さらに休日昼間・休日夜間の救急を輪番で担当した。実際には、夜間は平日・休日合わせて年間155日（前年度154日）、休日昼間は年間17日（同15日）を担当した。

その中で、電話対応は1130件（前年度1061件）、診察112件（同106件）、入院68件（同31件）であった。

<地域精神保健への協力>

措置鑑定12件（前年度8件）、措置入院17件（同23件）、また県や市の精神保健に関する各種会議、思春期相談事業、精神医療審査会、簡易鑑定、医療観察法の判定医業務、認知症サポート医、産業医業務などの協力を行った。

平成29年度より、新潟市北区において特定健診にあわせて、もの忘れ検診が開始されており、令和元年度も当院は専門病院の役割を担っている。

<会議・委員会>

医局連絡会議；基本的に第1と第3火曜日、午後4時半から30分～1時間で開催された。令和2年3月から第2火曜日に変更された。主な参加者は、医局、事務部長、看護部長、その他必要に応じて各部署の担当者である。同会議では、病院の診療に関わる様々な議題についての報告、議論、提案がなされた。その他、全体会議；医局医師全員、理事会；鈴木理事長、金子院長、川嶋副院長、澁谷副院長、教育委員会；澁谷副院長、倫理委員会；鈴木理事長、金子院長、川嶋副院長、澁谷副院長、医療安全対策委員会；川嶋副院長、リスクマネージャー委員会；布川医長、院内感染防止対策委員会；金子院長、鈴木理事長、褥瘡対策委員会；鈴木理事長、NST委員会；鈴木理事長、行動制限最小化委員会；橋野医長、医療観察法運営委員会；金子院長、衛生委員会；豊岡診療部長、鈴木理事長、薬事委員会；鈴木理事長、金子院長、豊岡診療部長、病院食検討委員会；金子院長、鈴木理事長、業務改善委員会；熊田医長、未収金対策委員会；鈴木理事長、金子院長、診療部会議；豊岡診療部長が担当した。

【今後の展望】

令和元年度も、医局は入院患者の受け入れ、措置入院患者の受け入れ、ベッドコントロール等に追われる多忙な1年であった。令和2年度は病棟再編を進め急性期病棟の立ち上げを含めた病院の改革・発展と地域医療への貢献にさらに取り組んでいく予定である。

文 責 熊 田 智

2019年度入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	264.9	256.0	263.8	267.5	272.7	271.8	268.5	272.6	275.3	273.6	271.6	263.0	268.4
新入院患者数	45	49	49	53	42	46	51	49	50	55	46	39	574
救急病棟入院者数	33	36	38	40	33	37	40	37	37	42	29	31	433
措置入院者数	0	1	2	2	1	2	1	1	4	1	1	1	17
応急入院者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2019年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来 の み	18	19	4	12	8	15	8	5	5	5	8	5	112
入 院 受 入 れ	4	7	8	8	3	5	8	4	2	7	5	7	68

2018年度入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平均入院患者数	271.6	274.3	260.5	262.6	274.0	274.7	273.5	270.4	261.5	258.0	261.5	262.9	267.1
新入院患者数	61	54	44	45	56	30	45	33	45	42	32	46	533
救急病棟入院者数	43	33	30	34	39	23	36	21	30	31	28	31	379
措置入院者数	1	3	2	3	2	1	2	1	3	2	1	2	23
応急入院者数	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2

2018年度時間外診療件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外 来 の み	10	7	3	11	9	10	8	11	18	8	9	10	114
入 院 受 入 れ	6	6	7	7	5	4	5	0	5	5	5	4	59

【部署名】

歯科

【職員数】

7名（歯科医師6：新潟大学医歯学総合研究科 歯周診断・再建学分野、歯科衛生士1）

伊藤事務員退職に伴い、令和2年1月より渡邊歯科衛生士を迎えた。歯科チーフは久保田から高橋へと変更となった。

【業務内容】

病棟及び外来の患者を中心に、以下の歯科診療を実施している。

- ・虫歯治療、冠や義歯などの製作
- ・歯周病治療及びメンテナンス（定期的な検査、専門的清掃による口腔管理）治療
- ・歯科疾患予防検診、口腔ケア
- ・特別養護老人ホーム「なぎさの里」への訪問歯科診療

入院患者に関しては、精神科主治医・看護師・病棟介護スタッフらと連携することにより、治療内容やメンテナンス期間など、患者の状態に合わせた治療を提供している。

なぎさの里への訪問診療についても、看護師および介護スタッフらと連携して、綿密な治療計画のもと、QOLに配慮した口腔ケア・歯科診療を実施している。

デイケア科、指定障がい福祉サービス事業所「いなほ園」の方を対象に、口腔ケアの必要性や予防歯科の大切さについての講演や口腔清掃指導を行っている。

【今後の展望】

口腔内の衛生状態を良好に保つことは、誤嚥性肺炎の予防など、様々な疾患に影響を与えることが報告されている。院内にある歯科という特長・意義をふまえ、歯科疾患の予防や治療にとどまらず、歯科衛生士と一丸となって訪問診療や口腔ケアを積極的に行うことで、全身の健康とQOLの向上に貢献する。また引き続き、外来看護師や医事課職員に診療補助や医療事務業務をご協力いただきながら、レジリエンスの高い歯科医療の提供を目指す。

文責 高橋 直紀

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
診療延人数	116	123	121	132	125	144	109	104	117	110	104	132

【部署名】

薬剤科

【職員数】

薬剤師 3名

アシスタント 1名

【業務内容】

2013年以降は電子カルテ導入により薬物治療情報が院内において一元化されたため、各部署からの薬剤情報への問い合わせ等も多々ある。その他、心理教育における病棟及び家族会での薬剤啓蒙講義、各病棟で行われるケースカンファレンスへの参加、各種委員会（医療安全対策委員会、リスクマネージャー委員会、院内感染防止対策委員会、褥瘡対策委員会、NST委員会等）への参加などチーム医療関連の業務も多く行っている。また医療安全面からの職員への薬物投与時等における教育・啓蒙活動、更には適正な薬物治療を目指した抗精神病薬の単剤化やスイッチングも医師を始めとした各職種と連携しながら行っており一定の成果を挙げている。

【今後の展望】

精神科救急病棟の開設により様々な患者の入院が想定される中、薬剤科としてはそれに伴う患者への薬学的関わり（持参薬管理における相互作用チェック、服薬指導等による服薬アドヒアランス向上、次年度に向けてクロザリルの導入準備など）を行うことで、患者さまの地域生活に向けてスムーズな治療、積極的な退院へと結び付けられるよう各専門職と協働しながら、更には薬剤師独自の服薬指導等で得た情報を医師に還元することにより、安全で適切な薬物治療がなされるよう努力していきたい。また病院経営への寄与ということで、先発医薬品の積極的な後発品への変更、期限切れによる廃棄薬剤の減少、持参薬切り替え時の当院採用薬への使用推奨、さらに病棟機能ごとによる薬剤の適正使用も検討していきたい。

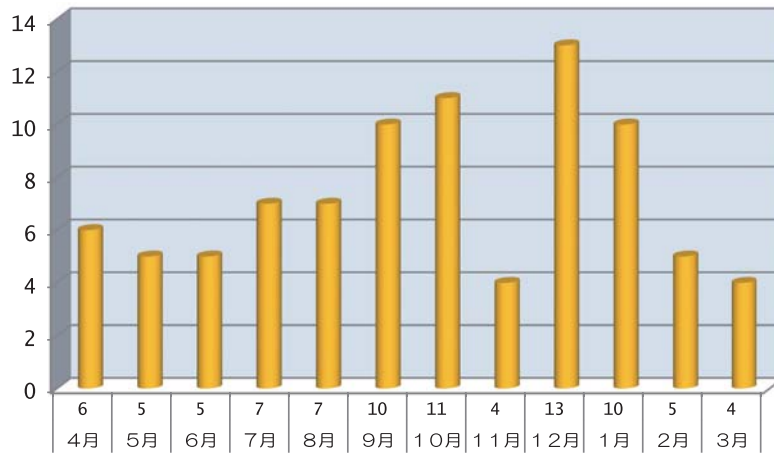
文責 田中 光生

【実績】

① 薬剤管理指導料件数

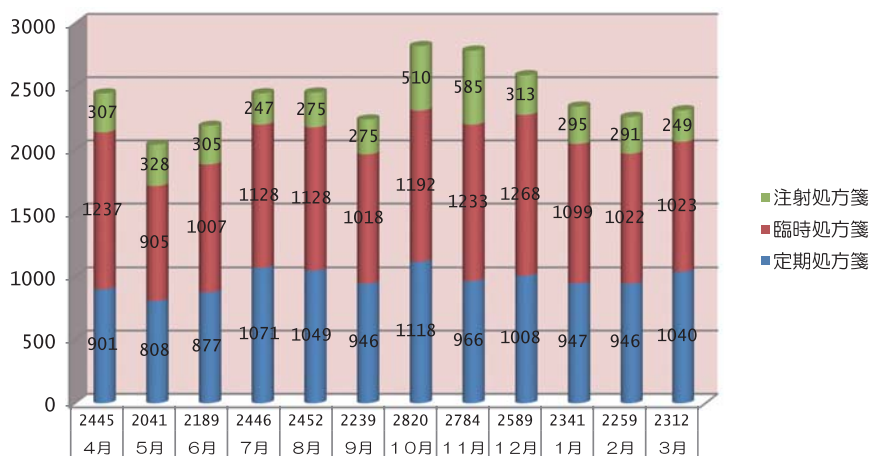
(薬剤管理指導料2・薬剤管理指導料3・退院時薬剤情報管理指導料の合計件数)

薬剤管理指導料総件数



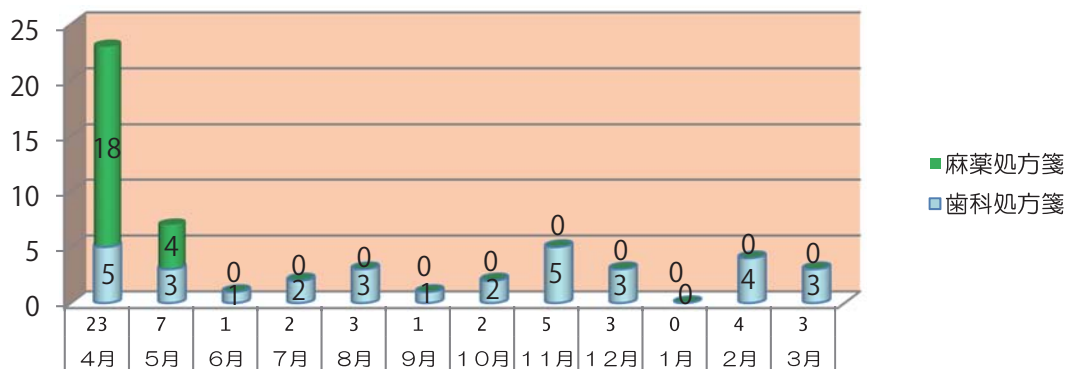
② 処方箋枚数 (定期・臨時・注射処方箋)

処方箋枚数 (定期・臨時・注射処方箋)



③ 処方箋枚数 (歯科・麻薬処方箋)

処方箋枚数 (歯科・麻薬)



【部署名】

放射線科

【職員数】

診療放射線技師：2名

【業務内容】

放射線科は下記のように外来患者と病棟入院患者に対して医師の指示のもとに放射線を用いた画像検査と、画像データ管理及び放射線管理、医療機器管理等の管理的業務を行っている。

1. 一般撮影の実施。
 - ①胸部単純（種々の胸部疾患の有無の確認、経鼻胃管挿入後の位置確認）。
 - ②腹部単純（腹部膨満や腹痛等の原因となる腹部疾患の有無の確認）。
 - ③全身骨・関節（転倒や打撲に伴う骨折の有無、関節痛や腫脹の原因となる疾患の有無の確認）。
2. 単純CT検査の実施。
 - ①頭部単純（器質性精神病の疑い、器質性脳病変の疑い、認知症の疑いとその経過、脳血管性障害の疑い、頭部外傷後の精査、長期入院患者の定期的な頭部CT検査の実施）。
 - ②胸部単純（肺疾患等の検索及びその経過観察）。
 - ③腹部単純（腹部疾患等の原因となる腹部臓器の異常の検索）。
 - ④その他の単純（胸腰部疼痛の原因検索、頭頸部の腫脹等の精査、四肢の発熱の原因検索）。
3. 画像データの管理と読影補助、PACSの管理等。
 - ①検査後の撮影画像をPACSへ転送し、その画像データの管理及び医師のモニタ読影の補助。
 - ・CT検査画像に関しては外部の読影専門機関へ画像データを送信、読影の依頼。
 - ・外部機関より届いた画像診断専門医による読影レポートのPACSへの保存管理。
 - ・読影レポートの内容を電子カルテへ「CT検査所見」として転記作業。
 - ②PACSの機器管理（保存画像データの定期的なバックアップ作業等）。
 - ③他医療機関との医療連携による画像データ管理。
 - ・他医療機関提供の記録メディア（CD、DVD）内画像データのPACSへの読み込み作業。
 - ・他医療機関へ提供の為にPACSから記録メディア内への画像データ書き込み作業。
4. 日常業務における医療機器（X線機器とPACS）の始業時及び終業時の点検作業。
5. 医療機器の保守点検の実施と放射線診療室の漏えいX線線量測定の実施。
 - ①医療機器メーカーによる保守点検計画に基づいた保守点検実施時の立会。
 - ・CT装置は年2回、一般撮影装置とPACSは年1回の実施。
 - ・歯科診療室のX線機器の保守点検は歯科診療室担当者に委託。
 - ・保守点検の結果の確認と評価（各々の医療機器の機能異常はみられなかった）。
 - ②線量測定委託業者による一般撮影室とCT検査室周辺の漏えいX線線量測定時の立会。
 - ・測定結果の確認と評価（各室外側における漏えいX線の検出はなかった）。
 - ③歯科診療室X線撮影室の漏えいX線線量測定と評価（漏えいX線の検出はなかった）。

【今後の展望】

1. これまで通りに医師の指示のもと一般撮影とCT検査を行なっていく。長期入院患者では頭部CT検査を定期的に行うことで頭蓋内病変等の早期発見に務めていく。
2. 医療機器の始業時点検及び終業時点検並びに保守点検により全ての医療機器の安全管理（X線被ばく線量の低減を含む）に務めていく。
3. 令和2年度でCT装置の耐用年数10年を迎える。検査の多様化に伴いCT検査件数も増加傾向にある。CT装置の更新も踏まえて今後の運用方法を検討していく。

文責 馬場 透

【実績】

〈画像検査数〉

①一般撮影回数

撮影部位	回数		
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
胸部	650	645	690
胸部内訳:胃チューブ確認	163	140	178
頸部	0	0	0
腹部	56	34	44
全身骨・関節	153	110	135
総数	859	789	869

②CT検査数

検査部位		件数		
		平成29年度	平成30年度	令和元年度
頭部	外来	158	74	108
	病棟	389	670	601
頭頸部		3	2	1
胸部		82	159	151
腹部～骨盤部		43	47	79
胸部～骨盤部		7	12	31
四肢		0	1	1
A i *1		8	0	1
総数		690	965	973

*1 A i : 死亡時画像診断(頭部及び体幹部)。

〈医療機器保守点検及び漏えいX線量測定〉

医療機器	保守点検実施月日	漏えいX線量測定月日
一般撮影装置	令和元年9月11日	①令和元年8月26日 ②令和2年2月17日
全身CT装置	①令和元年8月26日 ②令和2年2月17日	
CR装置	—	①令和元年5月27日 ②令和元年11月22日
PACS	令和元年8月14日	
歯科撮影装置		

※CR装置、PACSは新規に保守契約を締結。

〈他医療機関との診療画像の送付及び受取件数〉

診療画像	平成29年度	平成30年度	令和元年度
他医療機関への送付	49	32	61
他医療機関からの受取	31	53	70

【部署名】

臨床検査科

【職員数】

3名（臨床検査技師3名）

【業務内容】

入院患者及び外来受診者の臨床検査（検体検査・生理検査等）を実施している。検体検査では入院患者に対し原則毎月1回の定期採血（肝機能・腎機能・糖脂質・血球算定等）を実施し身体的変化をフォローしている。また定期採血に合わせて向精神薬の薬剤血中濃度も同時に測定し薬剤治療における適切な治療域管理を行っている。外来受診者においても年1回の採血を原則とし病態及び服薬状況に合わせて検査頻度を変え身体的状況の把握や精神薬治療域管理に努めている。

生理検査では主に抗精神病薬副作用のモニタリングとして心電図検査を定期的に行っており、各病棟（急性期・身体合併等）の形態に合わせて検査頻度を設定し薬剤副作用及び心疾患の早期発見に努めている。脳波検査は医師の指示を受けて個別に実施している。外来受診者においても入院患者と同様に検査を実施している。

職員健診は年2回実施している。春の健診は全職員を対象に、秋の健診は夜勤業務従事者を対象として主に採血及び心電図検査を行っている。

検査業務以外の活動としては感染症発生状況及び薬剤耐性菌検出状況の把握並びに感染症発生時のICTによる感染防止対策への参加、合わせて組織全体への院内発生状況の周知の実施を行っている。

その他、主に看護師を対象に検査技師不在時に用いられるPOCTの使用方法についての勉強会を開催している。

【今後の展望】

今年度は生化学自動分析装置の入れ替えを行った事により、大幅な業務効率化が図れた。合わせて検体検査の主要部分の殆どがバーコード運用になったため、業務効率の向上に加え手入力が原因と思われるオーダーミスを大幅に減らすことができた。

今後も医療業界の進歩に合わせ、絶えず新しい情報を収集し検査科としての患者サービスの向上と将来性のあるシステム作りを行いたい。

文責 村木 憲一

【実績】

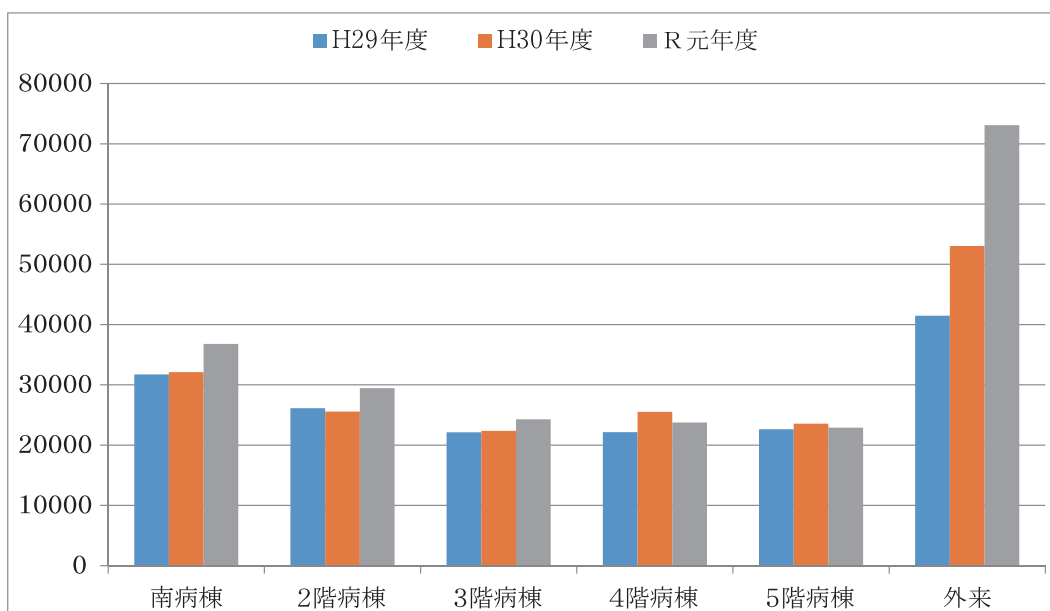
検体検査実施実績一覧

	平成30年度	令和元年度
南病棟	32,118項目 (内TDM155件)	36,801項目 (内TDM172件)
2階病棟	25,574項目 (内TDM 93件)	29,440項目 (内TDM103件)
3階病棟	22,367項目 (内TDM257件)	24,292項目 (内TDM292件)
4階病棟	25,516項目 (内TDM140件)	23,760項目 (内TDM 92件)
5階病棟	23,548項目 (内TDM218件)	22,910項目 (内TDM189件)
外来	53,036項目 (内TDM466件)	73,104項目 (内TDM583件)
職員健診	3,824項目	4,223項目
合計	178,207項目 (内TDM1,321件)	214,530項目 (内TDM1,431件)

生理検査実施実績一覧

	心電図検査実績	脳波検査
南病棟	426件	40件
2階病棟	222件	2件
3階病棟	116件	3件
4階病棟	104件	5件
5階病棟	116件	5件
外来	1269件	19件
職員健診	127件	0件
合計	2380件	74件

検体検査実績



【部署名】

栄養科

【職員数】

2名（管理栄養士2名）

【業務内容】

全病棟の患者を対象に栄養管理計画書を医師、看護師、薬剤師、管理栄養士が共同で作成している。特別な栄養管理が必要とされた患者には栄養計画を掲示、定期的にモニタリングを行い、適切であるか評価している。毎月BMIを算出し、入院患者の低体重や肥満者の比率を出している。低体重や低Alb値や肥満の場合、病棟や患者名、BMIを記載し、低栄養患者や肥満患者が毎月何名いるか一覧表を作成している。低栄養の早期発見として半年で5kg以上体重が減量した患者の一覧も月ごと栄養科で作成している。毎月のNST委員会に参加し、低栄養・肥満患者の一覧表はNST委員会の参考資料として使われ、他職種との情報共有に活用している。

栄養指導指示箋に基づき、入院・外来患者に栄養指導を行っている。また入院・外来患者向けに「みなみはま栄養たより」を作成し、テーマに沿った健康や栄養に関する情報提供をしている。

検食簿や毎月の残菜調査結果を参照し、給与栄養目標量に基づいた献立作成をしている。嗜好調査や病院食検討委員会では挙げられた意見を基に行事食やイベント食のほか、地産地消メニューを提供している。ランチビュッフェ、精神科救急病棟では選択メニューを行い、食事を通じて患者の選択が広がるよう立案している。昼食時には、病棟訪問を行い患者の摂食状況を把握している。

委託会社と協力し、食材料管理・衛生管理・施設設備管理を行っている。

【今後の展望】

日々の栄養管理や栄養指導を行うことで、入院中や在宅でも患者自身が健康管理に取り組めるよう支援する。また、委託会社と連携し円滑な給食管理を行うとともに感染予防対策を徹底し、感染を拡げない行動をとる。

文責 小嶋 萌

【実績】
(1) 提供食事数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院	22801	22687	22592	23928	24248	23449	23958	23556	24424	24122	22475	23956
デイケア他	880	783	836	960	858	777	899	767	772	717	707	827

(2) 栄養指導件数（入院・外来含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	18	17	17	14	10	14	9	8	21	38	42	46

【部署名】

心理室

【職員数】

公認心理師 5 名

【業務内容】

外来・入院患者様を対象に個人や家族への心理検査や心理面接（カウンセリング）を行っている。また、グループでの回想法や心理教育、患者様のご家族を対象とした心理教育（家族相談会）も行っている。その他、提携企業や福祉事業所などへの定期的なメンタルヘルス研修や行政からの依頼による研修や講演活動も実施している。

心理検査は、質問紙法や投影法といった検査用具を用いて、患者様の病態水準や病状理解、性格傾向の把握などをおこない、治療の援助や心理面接へのアセスメントとして活用している。

心理面接は、対象家族からの生活歴や治療歴、家族関係、また心理検査からの情報によるアセスメントにもとづき精神的な心理療法や認知行動療法、家族療法など患者様の治療に有用な心理療法を用い、その方が困っている生活上の問題を自身でコントロールできたり、過去のトラウマや葛藤体験の整理を促したりし、更なる精神的な発達とよりよい生活への支援を行っている。

患者様のご家族への心理教育では、家族に対する病気や薬への疾病教育と、家族の抱えている困り事や問題を家族同士でそれぞれの体験を活かして話し合うグループワークを一緒にした家族相談会を企画し、他職種スタッフと共に実施している。

その他、地域の企業や行政に出向き、ストレスケアを中心としたメンタルヘルス研修や家族相談会を実施し、地域貢献にも協力している。

【今後の展望】

精神科救急病棟の開設以来、発達障害圏や一過性のストレス性疾患の患者様の増加の中、今年度は認知症の患者様の受け入れが増え、認知症のスクリーニングをはじめ、脳機能の精査を目的にこれまで実施したことのなかった神経心理学的検査の依頼が増えてきた。この傾向は今後も続くことが考えられるため、神経心理学的検査の技術研鑽は今後の課題である。

私たちの仕事は、スピードや生産性といった効率化とは疎遠な業務内容だと考えている。患者様のペースや思いを第一に、個々の臨床スキルだけでなく、全人的なレベルアップを常に心がけながら日々業務を行っていきたいと考えている。

文責 中川甚一郎

【部署名】

医療相談室

【職員数】

8名（精神保健福祉士8名）

【業務内容】

- ・新患インテーク面接
- ・生活、医療福祉相談対応
- ・入院者退院支援
- ・他機関連携業務
- ・各種プログラム協力
- ・各種調査、アンケート協力
- ・外部会議出席
- ・共同住居管理
- ・実習生受け入れ
- ・夜間休日救急オンコール対応 等

【今後の展望】

相談件数は年々増えており、抱えている生活上の課題や困難も多様化している。急を要する状況や場面も増え、迅速かつ的確な対応が求められている。保健医療福祉介護分野だけでなく、教育・労働・司法分野からの相談も年々増加しており、幅広い知識や技術を習得する必要がある。また、数年前より共同住居入居者の高齢化や生活能力等の低下が課題となっている。入居者の意向を尊重しつつ、他部署・他機関と連携・協働しながら対応していく。医療機関における精神保健福祉士の役割と責務を考えつつ、地域にも常に目を向けながら、自分たちの強みを活かした支援や活動をしていきたい。

文責 吉川 牧子

【実績】

精神保健福祉士業務実績（精神科救急病棟精神保健福祉士を含む）

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診・受療	援助	268	249	274	400	331	287	325	337	356	390	270	308	3,795
経済問題	援助	15	29	16	21	17	11	34	22	39	41	33	23	301
背景・要因	把握	80	90	86	83	65	75	101	99	86	78	73	71	987
治療・療養	上の援助	189	187	198	237	201	231	209	214	261	279	208	313	2,709
社会・家庭	生活上の援助	139	101	81	96	87	63	134	113	94	91	75	82	1,156
制度利用	援助	198	170	194	213	192	212	266	198	233	193	256	236	2,561
退院・社会	参加への援助	230	218	360	237	275	303	230	113	195	212	214	114	2,701
アフター	ケア・訪問看護	149	114	104	115	79	82	107	61	55	56	54	71	1,047
その他		37	30	28	45	38	67	75	95	96	92	60	167	830
援助方法	面接	459	395	464	459	379	426	470	368	475	431	408	475	5,209
	院内調整	129	88	101	139	111	82	105	83	83	97	66	68	1,152
	電話文書	745	701	779	861	798	808	905	832	851	910	769	880	9,839
	院外訪問	1	4	6	3	5	5	8	7	9	3	2	0	53
総数	1,334	1,188	1,350	1,462	1,293	1,321	1,488	1,290	1,418	1,441	1,245	1,423	16,253	

各項目は新潟県医療社会事業実績報告の項目を基準として分類

精神保健福祉士業務年次推移

（単位：件）

年度（年）	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度
延べ件数	11,171	16,781	14,934	15,168	13,454	19,386	15,804	14,969	16,253
月平均	930.9	1,118.7	1,244.5	1,264.0	1,121.1	1,615.5	1,317.0	1,247.4	1,354.4

令和元年度 共同住居入居者数

（単位：名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
金権家 （定員13）	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
吉田家 （定員12）	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

【部署名】

デイケア科

【職員数】

9名（看護師3名 精神保健福祉士5名 作業療法士1名）

【業務内容】

プログラムの提供

集団：ピアサポーター活動、就労支援プログラムSST、WRAP、学習講座、話・憩の広場、スポーツプログラム、園芸、創作、調理実習、喫茶活動、ハンドベル、書道・俳句グループ、記者クラブ、メンバーミーティング

個人：パソコン、カラオケ、ビリヤード、卓球、麻雀、将棋、ビーズ手芸、編み物など

デイケアでは様々なリハビリテーションプログラムにより、生活能力をあげ、また人とのつながりや趣味など、暮らしが豊かになることを目指している。

プログラムへの参加は自分で選択し「主体的に責任をもって生きる」ことをサポートしている。

就労支援プログラムでは今年度より、既存のプログラムに加えSST・WRAP・認知行動療法などの心理プログラムを組み入れ統合的就労プログラムとして行った。

ピアサポーター育成では、ピアサポーター主体のWRAPプログラムも新たに開催した。

メンバーミーティング

イベント企画の立案やプログラム・設備の要望、苦情などの意見交換をし、デイケア運営に反映させている。

学習講座

身近な病気や医療、社会的なモラル、社会資源など他部署のスタッフや専門職、地域のスタッフと連携し、必要な最新情報をタイムリーに提供した。

他3ヶ月に1度はメンバーと担当スタッフで面談をし、目標に対しての評価、振り返りを行いながら新たな目標の再設定を行い、デイケアに通う目的の再確認を行っている。

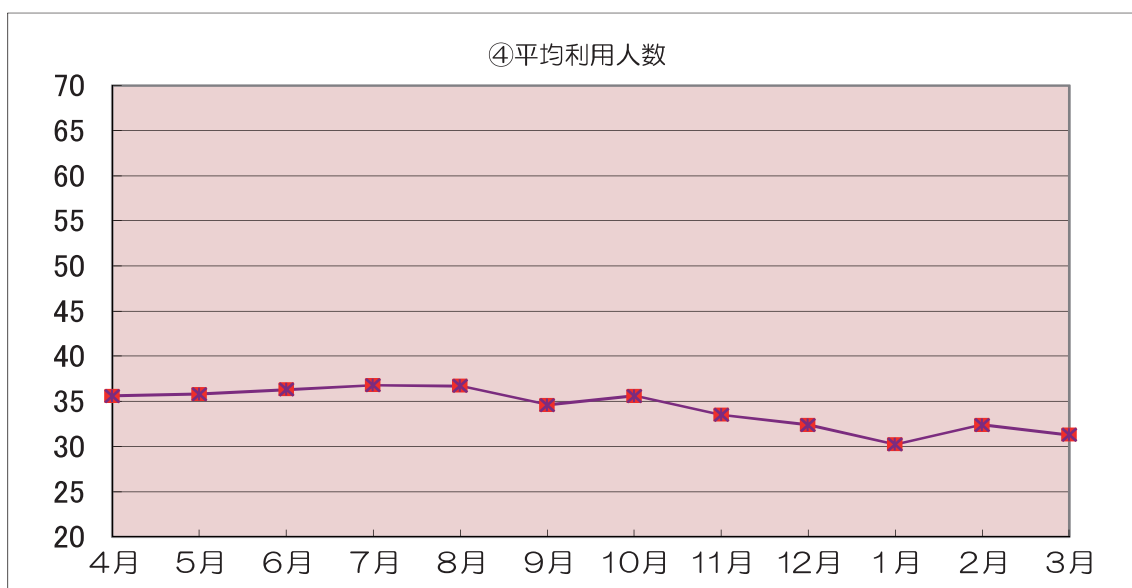
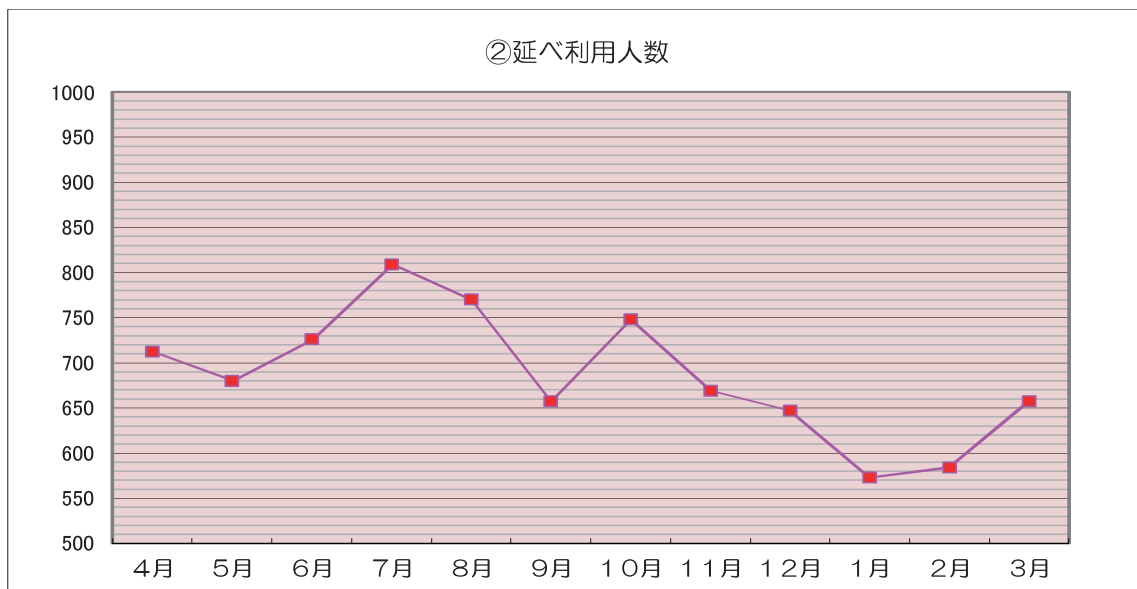
【今後の展望】

1. 2020年9月30日をもってデイケア閉所となるため、それぞれのメンバーがデイケアでの目的や目標を継続できるよう、関係各所と連携し地域サービスにつなげていく。
2. デイケア閉所の準備を進めながらもプログラムを継続し、メンバーのデイケア参加の目的や目標が継続できるようにする
 - ・心理プログラムの継続
 - ・スポーツプログラムの継続
 - ・ピア活動の継続
 - ・高齢者向けのプログラムの継続

文責 伊藤久美子

2019年度 デイケアメンバー利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
① 登録人数	106	107	108	109	108	107	106	111	107	105	105	106	107.1
②延べ利用人数	712	680	726	809	770	657	748	669	647	573	584	657	686.0
内ショートケア人数	63	66	80	96	82	78	86	85	68	68	87	77	78.0
③稼働日数	20	19	20	22	21	19	21	20	20	19	18	21	20.0
④平均利用人数	35.6	35.8	36.3	36.8	36.7	34.6	35.6	33.5	32.4	30.2	32.4	31.3	34.3
⑤新規登録	0	1	1	2	0	0	1	5	0	0	1	1	1.0
⑥登録削除者様	6	0	0	1	1	1	2	0	4	2	1	0	1.5



【部署名】

作業療法科

【職員数】

13名（作業療法士12名 作業療法補助員1名）

【業務内容】

精神障害を発症、または病状が悪化したことにより入院治療が必要となった方への治療として、薬物療法と併用して心理社会的治療法の一環として精神科作業療法（以下；OT）を行う。薬物療法で急性期症状が軽減した頃に、集団での人間関係の中で実際の軽作業やレクリエーションなどの活動を行うことで、体力・持久力・集中力・忍耐力、そして協調性・社会性といった生活機能を再び取り戻していくためのリハビリテーションプログラムを行っている。また、通院者を対象にした外来OTでは外出の切っ掛けとして居場所の提供や自己啓発の場としている。近年では入院患者の高齢化に伴い誤嚥や転倒の危険性も高まっているので、病棟によっては誤嚥防止対策として口腔体操を週5日実施したり、廃用症候群の防止を目的に身体リハ担当の作業療法士が専属として精神面の他に身体面へのアプローチを重点的に行うなど予防対策にも取り組んでいる。他に身体拘束の指示がでた対象者に対する深部静脈血栓症予防プログラムの立案を行い病棟職員へ教授している。

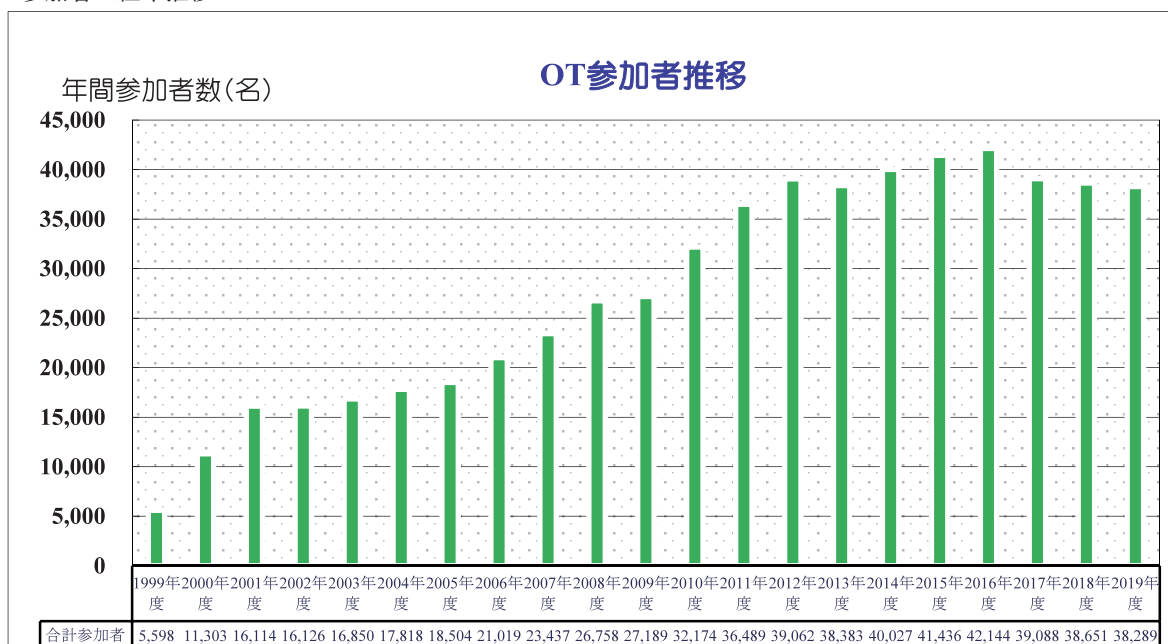
【今後の展望】

病院全体としてチーム医療を推し進めている中で、作業療法士による徹底した病棟担当制を実施してきたが、大きなメリットもあった反面デメリットも生じた。そこで年度中盤頃より担当制は強化しつつも病棟相互の協力体制を復活させた。そのことで視点が広がり、また安全性も増した。作業療法科の基本方針として「安全で楽しく」を継続し、リスクの可能性を考え予測義務・回避義務を果たしながら、楽しく自主的に参加して頂け、効果が実感できるようなプログラムを提供し続けられるよう常に見直し実践していく。

文責 細野 政昭

【実績】

◇OT参加者の経年推移



※平成11年5月開設以来、21年目を迎えOTの年間参加者が増加している

◇月単位の参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	3,367	1,655	3,127	3,725	3,568	3,281	3,601	2,283	3,572	3,218	3,108	3,784	38,289

◇病棟単位での参加者数

〈単位：人〉

病棟	南病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合計
実数	3,682	9,439	7,496	9,961	7,506	38,084

◇令和元年度 外来OT参加者数

〈単位：人〉

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実数	20	19	22	21	11	15	19	14	14	15	14	21	205

◇令和元年度 個人OT実施者数と延べ回数

病棟	南病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合計
対象人数	9	84	4	7	7	111
合計回数	73	791	185	64	146	1,259

◇身体拘束者に対する深部静脈血栓症予防プログラム提供数

病棟	南病棟	2階病棟	3階病棟	4階病棟	5階病棟	合計
合計回数	31	22	10	11	0	80